

# JSCS

日本カリキュラム学会

The Japanese Society for Curriculum Studies

## 第36回花園大学大会プログラム

**2025年6月21日(土)～22日(日)**

〒604-8456

京都府京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1

花園大学

第 36 回大会実行委員会

委員長 磯田文雄

E-mail [jscs36hana@gmail.com](mailto:jscs36hana@gmail.com)

大会 HP <https://jscs-info.jp/meeting/2025.html>

後援：京都市教育委員会

36th

# 日本カリキュラム学会

## 第36回 花園大学大会プログラム

◆前 日 2025年6月20日（金）16:00～18:00 理事会

花園大学 自適館 202 教室

◆第1日 2025年6月21日（土）

受付 9:30～ 花園大学返照館 1 階

|       |                                                                                |                                                                            |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 10:00 | <b>課題研究Ⅰ</b><br><b>多様な学びと学校の課題Ⅱ</b><br><b>—多様な学びの多様性を考える—</b><br>返照館 100 教室    | <b>課題研究Ⅱ</b><br><b>教育行政とカリキュラム</b><br><b>—学習指導要領の改訂期の実際—</b><br>返照館 200 教室 |
| 12:00 | 昼食                                                                             |                                                                            |
| 13:00 | 自由研究発表Ⅰ<br>返照館 203、301、302、303、304、401、402、403、404、405 教室                      |                                                                            |
| 15:00 | 休憩・移動                                                                          |                                                                            |
| 15:30 | <b>公開シンポジウム</b><br>ESD（持続可能な開発のための教育）を問い直す<br>—学校教育に対する可能性と検討課題—<br>返照館 100 教室 |                                                                            |
| 17:30 | 休憩・移動                                                                          |                                                                            |
| 18:00 | 研究交流会<br>真人館地下 ふるーる                                                            |                                                                            |
| 19:30 |                                                                                |                                                                            |

◆第2日 2025年6月22日（日）

受付 9:30～ 花園大学返照館 1 階

|       |                                                                             |                                                                            |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 10:00 | 自由研究発表Ⅱ<br>返照館 203、301、302、303、304、401、402、403、404、405 教室                   |                                                                            |
| 12:00 | 休憩・移動                                                                       |                                                                            |
| 12:15 | 総会<br>返照館 100 教室                                                            |                                                                            |
| 13:15 | 昼食                                                                          |                                                                            |
| 13:30 | <b>課題研究Ⅲ</b><br><b>人口減少社会の学校カリキュラムは</b><br><b>どのように変わるのか？</b><br>返照館 100 教室 | <b>課題研究Ⅳ</b><br><b>教育の思想と実践をつなぐ</b><br><b>カリキュラム研究の国際的展開</b><br>返照館 200 教室 |
| 15:30 | 休憩・移動                                                                       |                                                                            |
| 15:45 | 自主企画セッション<br>返照館 301、304、401、402 教室                                         |                                                                            |
| 17:15 |                                                                             |                                                                            |

# 大会参加要領

## 1. 会場

花園大学返照館

アクセスについては下記サイトをご参照下さい。

<https://www.hanazono.ac.jp/about/access.html>



## 2. 受付

花園大学返照館 1 階

## 3. 大会参加申し込み（参加費）について

### 【参加登録（参加申込）】

オンラインシステムにより事前の参加登録を受け付けます。参加をご予定の方は、以下の受付期間にシステムにより参加のお申込みおよび参加費の納付をお願いします。詳しくは学会ホームページの「最新の全国大会」をご参照下さい（<https://jscs-info.jp/meeting/meeting.html>）

なお、大会第1日（6月21日（土））15:30から予定されております公開シンポジウムにつきましては、どなたでも無料で参加いただけます（人数把握のため、上記、参加申込システムでシンポジウムのみの参加受付も行っております。ただし、当日の参加も可能です）。この機会に是非ご参加下さい。

【事前参加申し込み期間】2025年3月3日（月）正午 ～ 5月30日（金）17時まで

※大会当日も会場にて参加受付を行います。運営の円滑化のため、できる限り事前の参加申込・参加費納付にご協力下さい。

### 【事前参加申込システム】

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/apply/JSCS>



### 【参加費】

参加費収納事務の効率化と納付手続きの利便性向上のため、クレジット決済を導入しております。クレジット決済につきましては、参加申込システム上で手続きを行ってください。また、従来通り、郵便振替でのご入金も承っておりますので、口座情報については、参加申込システムの申込完了メールをご参照下さい。

|              |            |
|--------------|------------|
| 正会員          | 3,000 円    |
| 学生会員         | 1,000 円    |
| 団体会員         | 3,000 円(※) |
| 臨時会員         | 4,000 円    |
| 公開シンポジウム参加のみ | 無料         |

※団体会員である機関からは、会員価格で複数名での参加が可能です。複数名での参加をご希望の場合は手続きについて事務局 [g050jscs-mng@ml.gakkai.ne.jp](mailto:g050jscs-mng@ml.gakkai.ne.jp)（[at]を@に変更してください）へお問い合わせください。また、大会参加費等で「団体会員」が適用されるのは5名までとし、大会で1団体がエントリーできるのは、自由研究発表1件、自主企画セッション1件までです。

#### 4. 昼食

近隣にはスーパーマーケット、コンビニエンスストアもありますが、数も少ないため、できる限りお弁当の事前予約購入をお願いいたします。(1食 800 円)。事前予約購入はオンライン参加登録システム上で可能です。当日のお弁当購入は対応致しかねますことをご承知おきください。

#### 5. 研究交流会

真人館「ふるーる」にて行います。研究交流会の参加は、事前予約のみ受け付けます。事前予約は、オンライン参加登録システム上で可能です。事前予約のない方は、研究交流会に参加できないことをご承知おきください。皆様の積極的な参加をお待ちしております。

|                |
|----------------|
| 研究交流会費 2,000 円 |
|----------------|

#### 6. 要旨集および発表資料について

自由研究発表・シンポジウム・課題研究の発表要旨は、大会 2 週間前から大会HPよりダウンロード可能となります(会員/臨時会員(参加者))。配布準備ができましたら、大会HP・メール等でご案内申し上げます。

また、上記に加え、各発表者の要旨原稿および発表資料(任意/システムへアップロードした方のみ)についても大会 2 週間前から専用サイトにて閲覧・ダウンロード可能となる予定ですので、こちらについても準備が整いましたら、併せてご案内申し上げます。

#### 7. 託児室について

本大会では、保育士が常駐する託児室を無料で利用することができます。場所は会場である返照館内に設置します。ご利用の条件は次のとおりです。

日本カリキュラム学会会員で第 36 回大会参加者であること(発表の有無は問わない)

お子さまが 2 歳から小学生までであること

託児施設の保育士と事前打ち合わせを行い、受け入れ可能と認められること

利用規定に同意すること

託児時間 21 日(土) 9:30~17:30、22 日(日) 9:30~17:15

託児室申し込み期間: 2025 年 3 月 3 日(月) 正午~ 5 月 30 日(金) 17 時まで

申し込み期間を過ぎての受付はできません。

※お申込み・運営規約・お子さまに関して(お子様の情報の連絡票)・個人情報の取り扱いについては大会ホームページをご参照下さい。

#### 8. 問い合わせ先(大会事務局)

日本カリキュラム学会第 36 回花園大学大会実行委員会

・大会運営・企画関係:

jscs36hana[at]gmail.com ([at]を@に変更してください。)

大会実行委員会 藤井浩史

・入会・会員管理・会費管理関係:

g050jscs-mng[at]ml.gakkai.ne.jp ([at]を@に変更してください。)

(株) ガリレオ学会業務情報化センター内 日本カリキュラム学会事務局

・参加登録・発表申込関係:

g050jscs-taikai[at]ml.gakkai.ne.jp ([at]を@に変更してください。)

(株) ガリレオ学会業務情報化センター内 日本カリキュラム学会事務局(大会担当)

## 自由研究発表要領

### 1. 発表時間について

自由研究発表の時間は、原則として次の通りです。

|                                                       |
|-------------------------------------------------------|
| 個人研究発表 25分（発表20分・質疑討議5分）<br>共同研究発表 50分（発表40分・質疑討議10分） |
|-------------------------------------------------------|

なお、共同研究であっても、発表者がお一人の場合は個人研究発表と同じ時間設定です。

### 2. 発表資料について

発表資料は、発表者が、ご自身で発表申込システムからアップロードできます。大会参加者は、発表者がアップロードした資料を各自のPCやタブレットなどの端末から閲覧することになります。また、紙媒体で発表資料を配布したい場合は、各自で必要部数をご用意の上、当日開始までに各部屋後方のコーナーに置いて下さい。大会実行委員会では追加の印刷はできかねますので、ご了承下さい。事前送付することもお控え願います。なお、大会校では印刷機やコピー機を使用できません。

### 3. 発表用機材について

発表の際に機材を使用する予定の発表者は、分科会開始前に各自で事前に動作確認を行って下さい。なお、HDMIの接続ケーブルは大会校で用意しますが、それ以外のケーブルやパソコンなどは各自でご用意願います。

### 4. 発表辞退について

やむを得ない事情で発表を辞退される場合は、必ず事前に大会実行委員会までにメールでご連絡下さい。なお、発表辞退に伴う発表時刻の繰り上げは実施しません。

## 自主企画セッション要領

### 1. 発表資料について

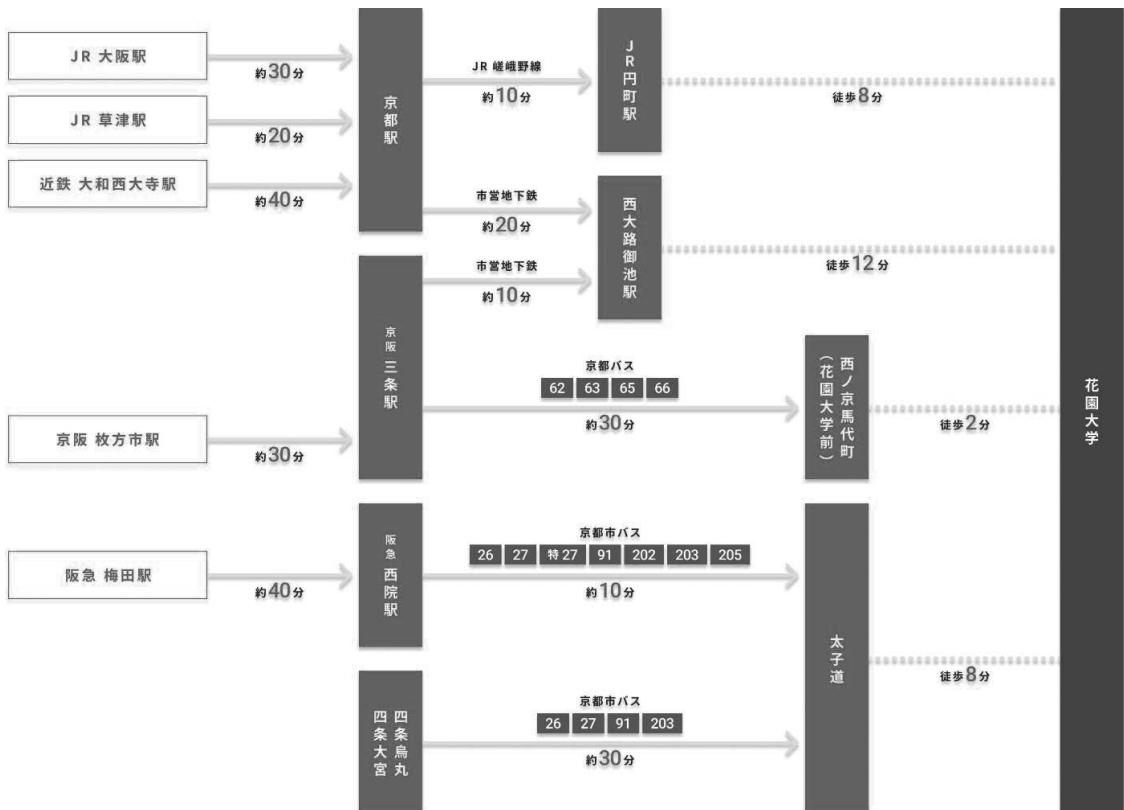
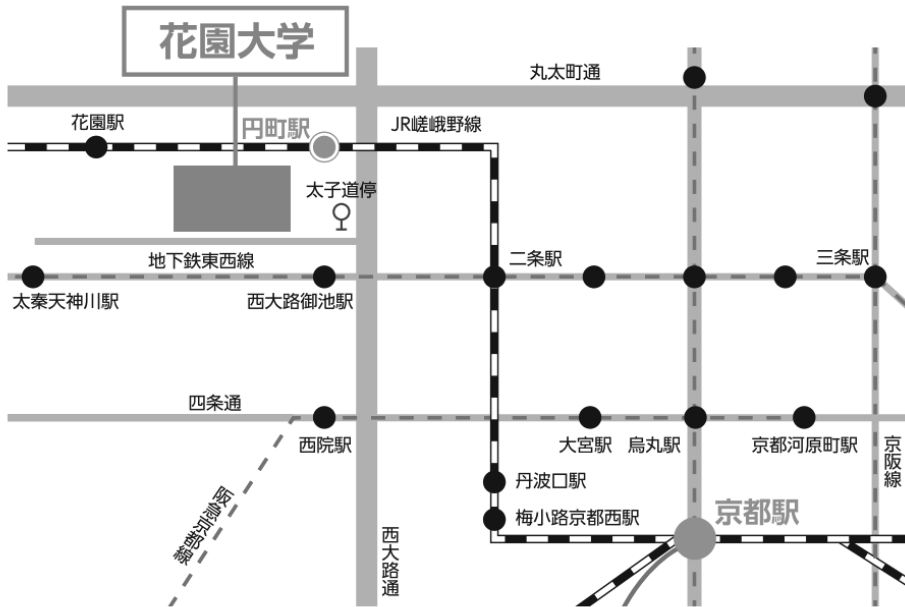
発表資料は、発表者が、ご自身で発表申込システムからアップロードできます。大会参加者は、発表者がアップロードした資料を各自のPCやタブレットなどの端末から閲覧することになります。また、紙媒体で発表資料を配布したい場合は、当日各会場にて企画者が配布して下さい。大会実行委員会では追加の印刷はできかねますので、ご了承下さい。事前送付することもお控え願います。なお、大会校では印刷機やコピー機を使用できません。

### 2. 発表用機材について

機材を使用する場合は、開始前に各自で事前に動作確認を行って下さい。なお、HDMIの接続ケーブルは大会校で用意しますが、それ以外のケーブルやパソコンなどは各自でご用意願います。

# 花園大学へのアクセス

所在地：花園大学返照館 〒604-8456 京都府京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1



(1) 公共交通機関をご利用の場合

①JR 京都駅より

JR 嵯峨野線「円町駅」下車 徒歩 8 分

市バス 26・205「太子道」下車 徒歩 8 分

「京都駅」までは JR「大阪駅」から約 30 分、JR「草津駅」から約 20 分、近鉄「大和西大寺駅」から約 40 分

②京阪三条駅より

京都バス 62・63・65・66

「西ノ京馬代町（花園大学前）」下車 徒歩 2 分

京阪三条駅までは 京阪「枚方市駅」から約 30 分

③阪急西院駅より

市バス 26・特 27・27・91・202・203・205 「太子道」下車 徒歩 8 分

阪急西院駅までは 阪急「梅田駅」から約 40 分

④四条烏丸・四条大宮より

市バス 26・27・91・203「太子道」下車 徒歩 8 分

京都市バス

<https://www2.city.kyoto.lg.jp/kotsu/busdia/bustime.htm>

京都バス

<https://www.kyotobus.jp/route/index.html>



(2) お車でお越しの場合

①名神高速道路京都南 I.C.より約 8km（所要時間：約 30 分）

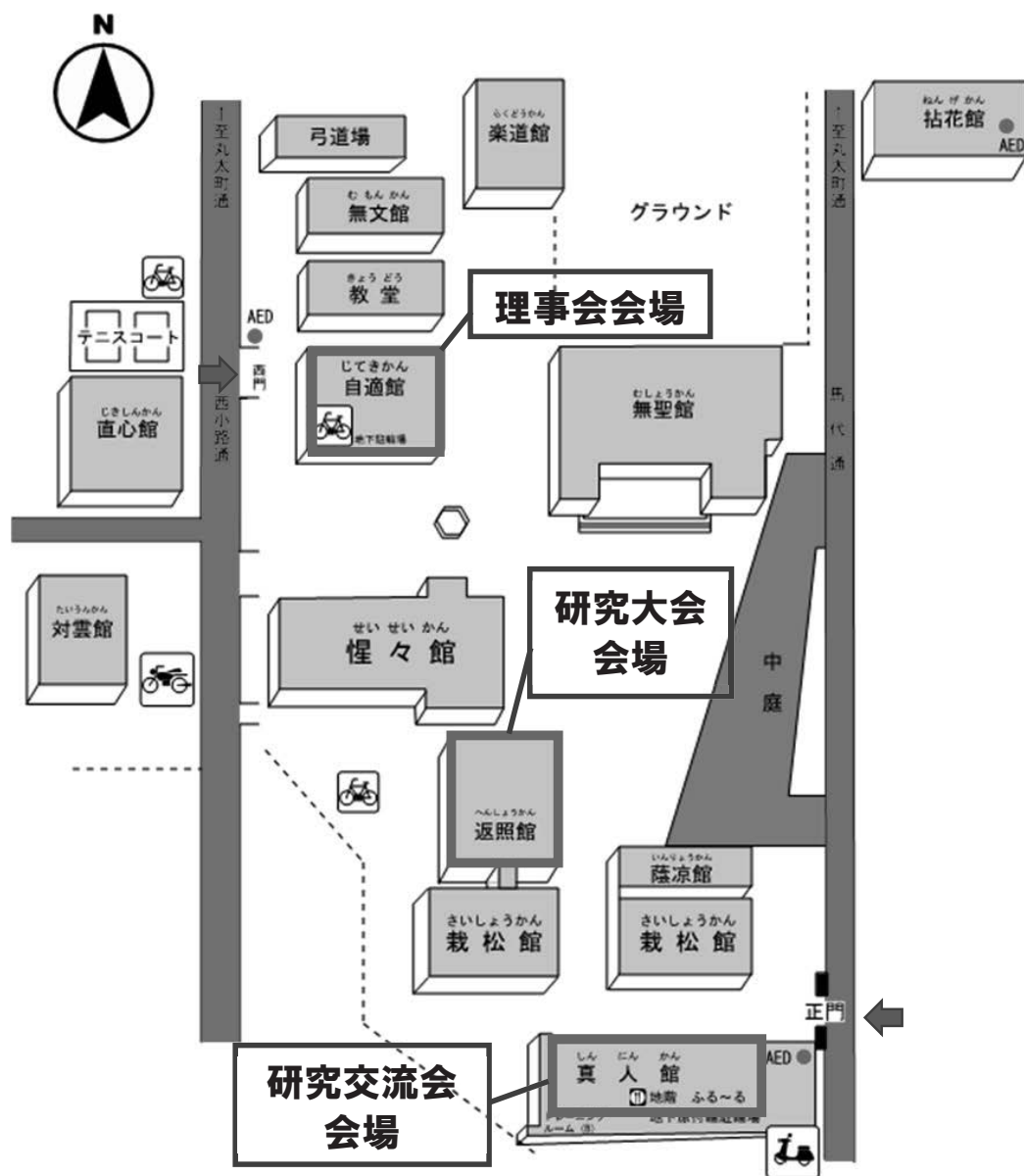
②名神高速道路京都東 I.C.より約 12km（所要時間：約 50 分）

※京都市内は交通渋滞が予想されます。キャンパス内に駐車場はありませんので近隣の駐車場をご利用ください。

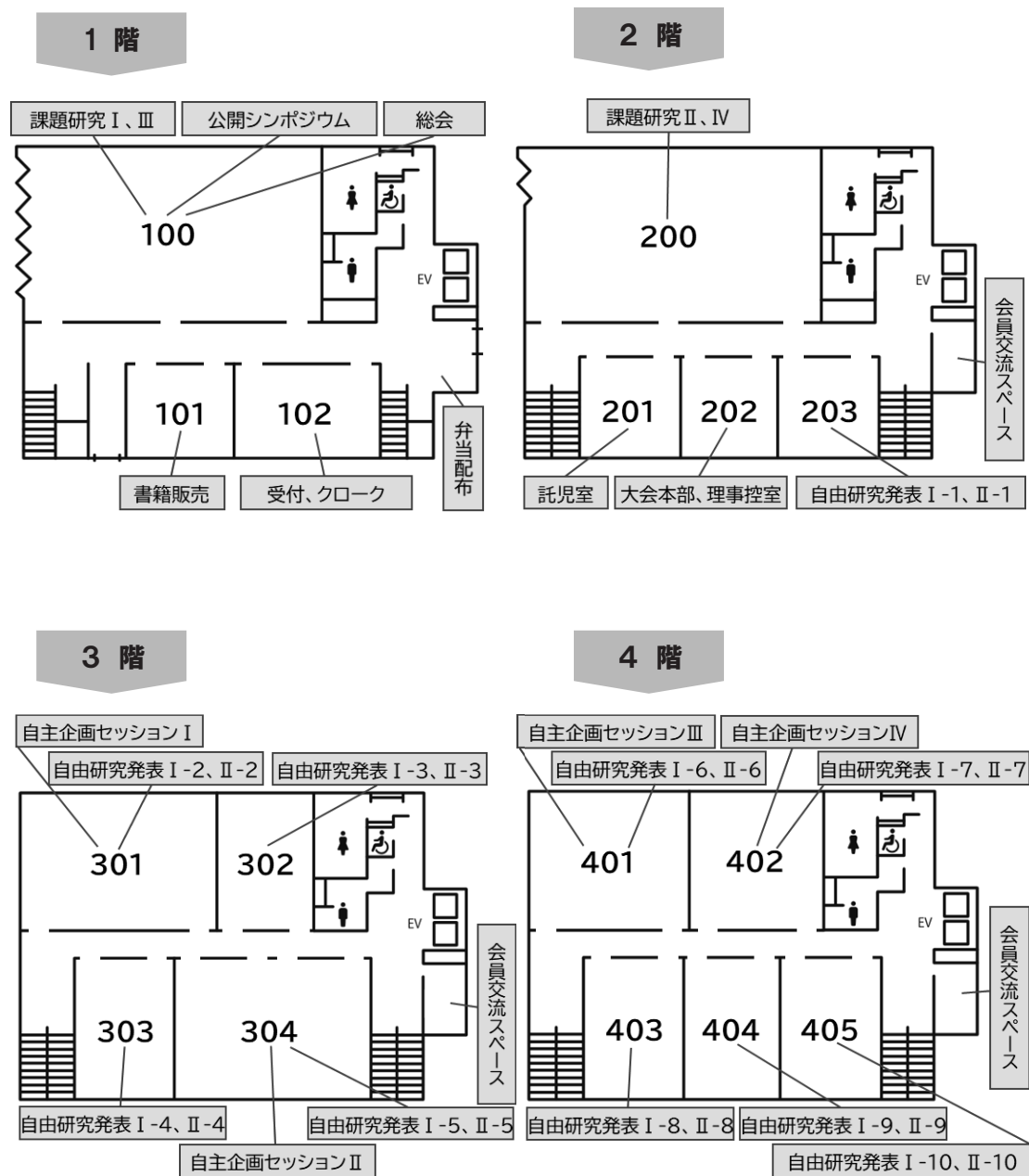
## 大会会場の略地図

6月21日(土)・22日(日)両日ともに、受付は返照館1階102教室です。

〈キャンパス全体図〉



## 返照館フロアマップ



- ・昼食は、返照館内の教室でお願いします。
- ・研究交流会は真人館です。



課題研究 I

多様な学びと学校の課題Ⅱ  
—多様な学びの多様性を考える—

返照館 100

「学びの多様化学校」という言葉が語られ、多様な学びの試みが全国において展開されている。本学会では昨年度（2024年度）「多様な学びと学校の課題」と題して課題研究を実施し、イェナプラン教育のコンセプトを取り入れた学校や「生活と授業」という観点からの公立学校の取り組み、そして、アメリカの学校の事例などを取りあげた。今年度もこの課題意識を継承し、多様な学びとは何か、学びの多様化なのかそれとも学校の多様化なのか、カリキュラムとの関係などそれぞれの報告者の観点から考えてみたい。

非会員の中邑賢龍氏には、東京大学先端科学技術研究センターがおこなっている「すべての子どもを包摂する学校と反対の学び LEARN プログラム」の刺激的な取り組みについてご紹介いただく。本所恵会員には、スウェーデンにおける高校段階の学力保障のカリキュラムや、社会的なウェルビーイング、包摂的な教育についてご報告いただく。鵜川護会員には、勤務校の取り組みである、個の生活知を豊かにする新領域「経験」と、体験を価値の創造につなぐ「じぶん」の時間を創設し、経験から新たな知や価値をつくる教育課程に関する研究開発についてお話しいただく。まさに多様な3つの実践事例を通して、多様な学びについてさらにアイデアを広げ、学校での学びや学校教育自体の課題を検討する手掛かりを提供したい。

<発表者>

- ・「学校と反対の学び LEARN プログラム」の取り組みから

中邑 賢龍（東京大学、非会員）

- ・スウェーデンの多様な高校教育

本所 恵（金沢大学）

- ・附属小学校における教育課程開発の取り組みから

鵜川 護（香川大学教育学部附属高松小学校）

<司会>

- ・子安 潤（愛知教育大学名誉教授）
- ・上地 完治（琉球大学）

<コーディネーター>

- ・子安 潤（愛知教育大学名誉教授）
- ・上地 完治（琉球大学）
- ・鵜川 護（香川大学教育学部附属高松小学校）

第1日（6月21日）10:00～12:00

課題研究Ⅱ

教育行政とカリキュラム  
—学習指導要領の改訂期の実際—

返照館200

2024年12月25日に文部科学大臣から次期学習指導要領に向けた諮問がなされ、現在、中央教育審議会における審議が進みつつある。

学習指導要領の改訂は、教育課程・教育内容に大きな影響を与える。学問や社会・子どもの変化を捉えつつ、子どもの学習指導や教師の学校づくりの支援を展望するプロセスは、教育課程・カリキュラムに関する議論を活性化させる。一方で、政権の意向が強く反映されたり、学校の教育課程編成権や教育内容を規制したりする方向に進む危険性もある。教育行政の内部においては、どのような過程、配慮、折衝を基に今後の教育を展望し、学習指導要領を作成していくのだろうか。

本課題研究では、文部科学省において長きにわたり教育行政に携わられた磯田氏にご登壇いただき、教育行政とカリキュラムについて、特に学習指導要領改訂期の特徴や動向についてお話し頂く。研究開発学校に関する改革の時期から本学会に関与された氏から、各学習指導要領改訂期の動向及びその分析についてお話し頂き、教育行政の実際と今後の展望に関する議論を行う。

学習指導要領の策定と中央教育審議会の議論に焦点を当て、未来の社会像、必要と思われる学力（資質・能力）、学習形態をどのように展望し、各アクター間の調整をどうされてきたのか。今後の学習指導要領改訂について、どのような議論や展開が予測されるか。カリキュラム研究の立場から重要となる論点や動向は何か。現在中教審教育課程部会、教育課程企画特別部会委員として学習指導要領改訂に取り組まれている貞廣齊子氏、田村知子氏からの指定討論も頂きながら議論を深めたい。

＜発表者＞

- ・教育行政とカリキュラム研究

磯田 文雄（花園大学）

＜指定討論者＞

- ・貞廣 斎子（千葉大学、非会員）
- ・田村 知子（大阪教育大学）

＜司会・コーディネーター＞

- ・川地 亜弥子（神戸大学）
- ・高橋 亜希子（南山大学）

第1日（6月21日）13:00～15:00

自由研究Ⅰ－1

返照館203

司会 川地 亜弥子（神戸大学）  
伊藤 実歩子（立教大学）

13:00 戦後奈良女子高等師範学校附属小学校における「奈良プラン」の構想過程  
—「しごと」創成期の教師の思想に着目して—

田村 恵美（東京家政大学）

13:25 新制中学校「職業科」の編成過程に関する考察  
—GHQ/SCAP RECORD C.I.E Vocational Education Branch 所蔵資料の分析を  
通して—

八木 美保子（東邦大学）

13:50 谷籙太郎の図画教育改革論  
—大正新教育期の実際家にみる教科認識の変容—

橋本 美保（東京学芸大学）

全体討議（14:15～15:00）

自由研究Ⅰ－2

返照館301

司会 高橋 亜希子（南山大学）  
吉田 成章（広島大学）

13:00 自律的な歴史探究を促すコースワークブックのデザイン研究  
—日本の高校におけるイングランドAレベルの再文脈化の事例として—

○松本 理敬（滋賀県立東大津高等学校）  
玉井 慎也（北海道教育大学釧路校）

13:25 台湾の中学校社会科公民分野にみる生徒指導の実践的視点  
—学校生活の規範意識に着目して—

山下 大喜（山口大学）

13:50 全国要領の改訂作業に伴うイタリアの歴史教育論争  
—歴史科の目的と学習に着目して—

徳永 俊太（京都教育大学）

全体討議（14:15～15:00）

第1日（6月21日）13:00～15:00

自由研究Ⅰ－3

返照館302

司会 木原 俊行（四天王寺大学）  
本所 恵（金沢大学）

- 13:00 社会・地域の担い手意識を醸成する「大人の学び場」づくり  
—地域課題「デジタル・ディバイド」の解消に向けた中学生の社会参画—  
大田 誠（山陽小野田市立埴生小中一貫校）
- 13:25 2か年に渡る総合的な学習の時間への挑戦  
～子どもたちの「庵治石」への思いを生かした2か年の実践～  
○前場 裕平（高松市立新番丁小学校）  
○大西 美輪（香川大学）
- 14:15 School-Based Curriculum Management (SBCM)の研究  
—学習指導要領「カリキュラム・マネジメント」への理論的示唆—  
倉本 哲男（静岡文化芸術大学）
- 全体討議（14:40～15:00）

自由研究Ⅰ－4

返照館303

司会 澤田 稔（上智大学）  
川口 広美（広島大学）

- 13:00 子どもの高齢者理解を深める福祉教育プログラムの開発と学校教育現場への応用  
—プログラム報告を中心に—  
杵渕 洋美（多摩大学）
- 13:25 小学校における概念ベースのカリキュラム開発  
—「自然とともに生きるには？」の問いで形成する「有限性・持続」—  
渡邊和也（大阪教育大学附属平野小学校）
- 13:50 「災害」に注目した平成学習指導要領の検討  
大辻 永（東洋大学）
- 14:15 米国におけるトラウマ・インフォームド教育  
—HEARTSによる学校改善支援に注目して—  
西岡 加名恵（京都大学）
- 全体討議（14:40～15:00）

第1日（6月21日）13:00～15:00

自由研究Ⅰ－5

返照館304

司会 草原 和博（広島大学）  
趙 卿我（武庫川女子大学）

13:00 児童が安心して学習できる授業づくりの効果と持続性の実践研究  
―チーム学校にもとづく教科担任制のカリキュラムをめざして―  
山口 博功（大阪市立長谷川小学校・中学校）

13:25 探究型カリキュラムを通じた学校コミュニティ発展過程で生じる矛盾の解明  
―高校とのアクションリサーチにもとづく学校変革の活動理論研究―

○木村 優（福井大学）

○藤井 佑介（長崎大学）

14:15 E.W.アイズナーと T.パロンによるアートベース・リサーチの理論と実践：カリキュラム批評の認識論と方法論

岡村 亮佑（長野大学）

全体討議（14:40～15:00）

自由研究Ⅰ－6

返照館401

司会 田村 知子（大阪教育大学）  
遠藤 貴広（福井大学）

13:00 キャリア教育を充実させるカリキュラム・マネジメントⅡ  
―『役割』意識を拓げる指導と評価の工夫―

荒川 文雄（棚倉町教育委員会）

13:25 主幹教諭によるカリキュラム・マネジメントへの関与の可能性

陸奥田 維彦（大阪教育大学大学院）

13:50 学校のカリキュラム・マネジメント推進のための「余白」の確保と活用  
～教師と子どもの「じりつ（自律・自立）」を目指した取組から考える～

○村川 雅弘（甲南女子大学）

○八鈕 明美（知多市立新知小学校）

○石田 有記（日本体育大学）

全体討議（14:40～15:00）

第1日（6月21日）13:00～15:00

自由研究 I - 7

返照館 402

司会 磯田 文雄（花園大学）  
二宮 衆一（和歌山大学）

- 13:00 学校教育研究における野中郁次郎の経営学理論(1974-1985)の受容  
長浜 佐知子（奈良市立椿井小学校(奈良教育大学大学院研究生)）
- 13:25 子どもの学ぶ意欲を高めるための「私の時間」の意義  
—40分授業×午前5時間制の教育課程に着目して—  
伏木 久始（信州大学）
- 13:50 特殊的好奇心を喚起する授業  
～報酬学習フレームワークを活用して～  
安達 心（筑波大学大学院）
- 14:15 論理的思考カリキュラムの基礎づけ  
—「トゥールミン・モデル」から弁証法へ—  
佐長 健司（福岡女子短期大学）

全体討議（14:40～15:00）

自由研究 I - 8

返照館 403

司会 中野 和光（美作大学）  
鵜川 護（香川大学教育学部附属高松小学校）

- 13:00 「生徒」を主語にした学校づくり  
～NGSWプロジェクトで「生徒活躍型」の長沢中へ～  
藤井 亮平（横須賀市立長沢中学校）
- 13:25 小学校における〈各教科のねらいの達成意図〉と〈子どもの見出す目的〉を合致させる合科的カリキュラムに関する一考察  
大村 龍太郎（早稲田大学）
- 13:50 池袋児童の村小学校における「文を書く」実践の展開  
—学級自治活動との関係に着目して—  
香山 太輝（琉球大学）

全体討議（14:15～15:00）

第1日（6月21日）13：00～15：00

自由研究Ⅰ－9

返照館404

司会 的場 正美（愛知文教大学）  
水原 克敏（東北大学名誉教授）

13：00 カリキュラム・ヒストリ  
—研究の再考—社会運動研究の知見から—

大橋 隆広（浜松学院大学）

13：25 イエナ大学附属学校における教育実践の歴史的再構成：未刊行史料の分析を中心に

安藤 和久（琉球大学）

13：50 オランダのモンテッソーリ教育における教師の指導性

奥村 好美（京都大学）

全体討議（14:15～15:00）

自由研究Ⅰ－10

返照館405

司会 森 久佳（京都女子大学）  
富士原 紀絵（お茶の水女子大学）

13：00 ブラジルのカリキュラム政策における「学際性」概念の位置づけに関する一考察  
佐藤 雄一郎（大阪教育大学）

13：25 ドイツの社会教育における教育（Bildung）の探究

松田 充（兵庫教育大学）

13：50 『「教育評価」の基礎的研究』にあるニューマン解釈への異議申し立て  
—「スタンダード」「シミュレーション（模写）」「学問」をめぐる議論を中心に—

○渡部 竜也（東京学芸大学）

○堀田 諭（埼玉学園大学）

全体討議（14:40～15:00）

公開シンポジウム

ESD（持続可能な開発のための教育）を問い直す  
ー学校教育に対する可能性と検討課題ー

返照館100

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の提唱およびそれに関わる取り組みにも見られるように、持続可能な社会づくりの重要性は国内外で広く認知され、官民を問わず様々な主体によって、様々な場で、様々な取り組みが進められてきた。そうした取り組みの1つとして、持続可能な社会の創り手の育成をめざして国際的に推進されている教育活動に、ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）が挙げられる。

ESDは、2005年に始まった「国連持続可能な開発のための教育の10年（United Nations Decade of Education for Sustainable Development：DESD）」を契機として、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）を中心に推進されるようになった。DESD以降も、その後継プログラムである「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（Global Action Programme：GAP）」（2015～2019年）、および「持続可能な開発のための教育：SDGs実現に向けて（ESD for 2030）」（2020～2030年）が採択され、現在に至っている。

日本の学校教育の場においても、2017年・2018年に告示された学習指導要領、ならびに2017年に告示された幼稚園教育要領の前文にも示されているように、持続可能な社会の創り手の育成は、学校階梯を問わず、学校教育全体を通じて取り組むべき重要な課題となっている。そして、「ESDの推進拠点」とされるユネスコスクールをはじめ、ユネスコスクール以外の学校においても、ESDやSDGsを念頭に置いた実践への取り組み（あるいは、その必要性に対する認識）は広がってきている。

しかし、ESDの推進に関しては量的な拡大が見られる一方で、質的な深まり、および質の高い実践の保障については、今後、さらなる検討が必要な現状も指摘することができる。そこで、本シンポジウムでは、ESDやSDGsに関する教育活動の理論および実践についての検討を行うことで、持続可能な社会の創り手の育成を見据えた学校教育のカリキュラムのあり方を、参加者全員で問い直す機会をつくりたい。

<企画者>

- ・木村 裕（花園大学）

<登壇者>

- ・学校におけるESD推進の意義の再考

多田 孝志（金沢学院大学、非会員）

- ・ESDの実践に対して批判的教育学の知見がもたらし得る示唆

ーSDGsのカリキュラム・ポリティクスにおける矛盾・葛藤要因の意義ー

澤田 稔（上智大学）

- ・持続可能な社会の創り手の育成を目指した校内研究としての教育実践

ー総合学習「BIWAKO TIME」を幹とした取組を通してー

原田 雅史（滋賀大学教育学部附属中学校、非会員）

永田 郁子（滋賀大学教育学部附属中学校、非会員）

<司会・コーディネーター>

- ・木村 裕（花園大学）
- ・松下 晴彦（花園大学）

自由研究Ⅱ－1

返照館203

司会 金馬 国晴（横浜国立大学）  
北林 雅洋（花園大学）

10:00 1980年代に「総合学習」のカリキュラムをデザインした教師のゲートキーピング  
—安城市立二本木小学校の安藤正紀による教材開発と実践に着目して—

白井 克尚（愛知東邦大学）

10:25 戦後の公立学校における経験カリキュラムの改革に関する事例研究  
—金透プランと自育会の関係に着目して—

坂本 篤史（福島大学）

10:50 岩下吉衛による生活単元カリキュラムの開発と実践  
—東京女子高等師範学校附属小学校における低学年教育の研究態勢に着目して—

池内 愛花（東京学芸大学大学院）

11:15 コンピテンスに基礎を置くバージニア・プランのカリキュラム構造  
水原 克敏（東北大学名誉教授）

全体討議（11:40～12:00）

自由研究Ⅱ－2

返照館301

司会 上地 完治（琉球大学）  
松下 晴彦（花園大学）

10:00 主体的、対話的に深く学ぶ授業の実現と評価  
—道徳科授業の学びと評価を基点に—

内田 卓雄

10:25 教員による道徳教育に関する児童の評価と児童による自己評価との関連

中野 真悟（福島大学）

10:50 L.コールバーグ理論を基にした小中接続の発達段階による道徳性を育むカリキュラム形成とは

作田 澄泰（九州女子大学）

11:15 韓国の道徳科教育における評価活動の理解  
—「2022 改正 教育課程」に基づく中学校道徳科「成就水準」の開発研究を通じて—

張 有玟（韓国教育課程評価院）

全体討議（11:40～12:00）

第2日（6月22日）10:00～12:00

自由研究Ⅱ－3

返照館302

司会 黒田 友紀（日本大学）  
奥村 好美（京都大学）

10:00 総合的な学習の時間における計画されたカリキュラムと経験されたカリキュラムの相違の分析

光田 匠（奈良市立都跡小学校）

10:25 カリキュラム・コーディネーターの実践的知識  
—A 中学校の総合的な学習の時間—

緩利 真奈美（東京農業大学）

10:50 経験から知や価値を創造するカリキュラム開発と実践に関する研究  
～知や価値の創造の基盤となる経験の在り方の検討を通して～

○鶴川 護（香川大学教育学部附属高松小学校）

○町川 大（香川大学教育学部附属高松小学校）

○鉛口 梢（香川大学教育学部附属高松小学校）

全体討議（11:40～12:00）

自由研究Ⅱ－4

返照館303

司会 石井 英真（京都大学）  
石田 有記（日本体育大学）

10:00 知性と省察性を育むカリキュラムの検討  
—教科学習と新領域「MIRAI」の実践から—

○桑城 光（香川大学教育学部附属高松中学校）

池内 靖昌（香川大学教育学部附属高松中学校）

10:25 葛藤を視点とした越境型カリキュラムによるエージェンシー育成の評価に関する研究

—広島大学附属福山中・高等学校の取組を手がかりに—

○實藤 大（広島大学附属福山中・高等学校）

○合田 大輔（広島大学附属福山中・高等学校）

○上ヶ谷 友佑（広島大学附属福山中・高等学校）

○吉田 成章（広島大学）

○草原 和博（広島大学）

11:15 創造性を育む文化的シティズンシップ教育の構築に向けたカリキュラム分析：アイルランドの新科目「ドラマ、映画、演劇」を手がかりに

氏井 紅葉（上智大学大学院）

全体討議（11:40～12:00）

第2日（6月22日）10:00～12:00

自由研究Ⅱ－5

返照館304

司会 西岡 加名恵（京都大学）  
羽山 裕子（滋賀大学）

- 10:00 マイノリティをめぐる大阪市の教師の経験とカリキュラム開発  
—6年総合「猪飼野ナビゲーターになろう」を通して—

磯田 三津子（埼玉大学）

- 10:25 教育課程の編成原理としての政治教育  
—ボイテルスバッハ・コンセンサスの再検討を手がかりに—

大城 朝周（広島大学大学院）

- 10:50 境界線の「上に立つ」概念型カリキュラムの開発と実践  
—生活の中の権利分配の境界線を省察する—

○宮本 勇一（岡山大学）

○大城 朝周（広島大学大学院）

全体討議（11:40～12:00）

自由研究Ⅱ－6

返照館401

司会 竹川 慎哉（愛知教育大学）  
木村 裕（花園大学）

- 10:00 中国初等教育における労働カリキュラムと公民教育・キャリア教育の統合  
—レリバンスの構築を通じた教育課程の再定位—

史 鵬宇（岡山大学大学院）

- 10:25 社会探究の課題設定方法  
—変革を射程に入れた学習過程の創造—

安部 拓輝（筑波大学）

- 10:50 広域交流型オンライン多文化共生授業の展開とそのカリキュラム的位置  
—多言語多文化化する学校の小片としての意図と意義—

南浦 涼介（広島大学）

- 11:15 C.A.カランによる「コミュニティ・ランゲージ・ラーニング」の検討

田野 茜（京都大学大学院）

全体討議（11:40～12:00）

第2日（6月22日）10:00～12:00

自由研究Ⅱ－7

返照館402

司会 樋口 直宏（筑波大学）  
藤本 和久（慶應義塾大学）

10:00 羅生門的アプローチの現代的捉え直し  
—外国人児童生徒の学校カリキュラムへの包摂の視点から考察する生態学的教師  
エージェンシー—

竹内 陽介（広島大学大学院）

10:25 在外教育のカリキュラム的課題  
—在外邦人家族に着目して—

鶴田 百々（中村学園大学）

10:50 知的障害特別支援学校のカリキュラム・マネジメントの現状と課題  
—知的障害特別支援学校の課題分析—

○北野 原理（静岡大学）  
○山元 薫（静岡大学）

全体討議（11:40～12:00）

自由研究Ⅱ－8

返照館403

司会 子安 潤（愛知教育大学名誉教授）  
根津 朋実（早稲田大学）

10:00 教員の経験年数に応じた心理的安全性に関する一考察

○松宮 有里（愛知教育大学）  
倉本 哲男（静岡文化芸術大学）  
磯部 征尊（愛知教育大学）

10:25 学校の自立性を育てるカリキュラム・マネジメントの伴走型支援ツールの開発  
—マンダラチャートを用いた研修パッケージの提案—

岸田 蘭子（滋賀大学）

10:50 教師が探究的に学ぶ校内研修の意義と課題  
—X 高校における対話型論証を用いた校内研修の実践から—

○田中 孝平（北海道大学）  
松下 佳代（京都大学）

全体討議（11:15～12:00）

第2日（6月22日）10:00～12:00

自由研究Ⅱ－9

返照館404

司会 唐木 清志（筑波大学）  
柴田 好章（名古屋大学）

10:00 カリキュラム研究校における共通言語共有への一考察  
～四コマ漫画を用いた週報作成の実践を通して～

小野 智史（高松市立香東中学校）

10:25 学部教職課程における省察プログラムの体系化に関する研究  
―大阪教育大学における教員養成フラッグシップ事業の取り組み―

八田 幸恵（大阪教育大学）

10:50 スクールリーダー研修プログラムの開発過程  
―研修会後の追跡調査に着目して―

○磯部 征尊（愛知教育大学）

○倉本 哲男（静岡文化芸術大学）

伊藤 大輔（秋田県立大学本荘キャンパス）

全体討議（11:40～12:00）

自由研究Ⅱ－10

返照館405

司会 村川 雅弘（甲南女子大学）  
吉富 芳正（東京学芸大学）

10:00 カリキュラム・マネジメント論の構造分析  
―ギデンズのエージェンシー論に依拠して―

千々布 敏弥（国立教育政策研究所）

10:25 学校を基盤とするカリキュラム開発に資するリーダーシップ実践の検証  
―英国の学校のシニアリーダーシップチームの追跡を通じて―

○木原 俊行（四天王寺大学）

○島田 希（大阪公立大学）

11:15 知能情報社会におけるカリキュラム開発・生成の変容  
―ネットワーク基盤のカリキュラムシステムを中心に―

鄭 栄根（韓国教育課程評価院・京都大学）

全体討議（11:40～12:00）

課題研究Ⅲ

人口減少社会の学校カリキュラムはどのように変わるのか？

返照館100

日本は2005年から人口減少社会に突入し、2050年には総人口が9515万人になると予測されている。そのことがもたらす社会全体へのインパクトは様々に議論され、学校現場においても、人口減少社会がもたらす社会課題に対応するためのカリキュラムの開発が行われている。また、人口減少は、直接的に児童生徒数の減少につながり、そのことから教職員数や学校数を減らしていく方向への再検討につながり、それは教育課程のあり方へ実施条件の変更を迫ることにつながる。それにより、例えば、通学可能な範囲に学びたい学科のある高等学校がないといった課題も生じ始めている。こうした状況を念頭に置いた際、二つの問い①「人口減少社会における課題に対して、学校カリキュラムは貢献しうるのか」、②「人口減少社会のカリキュラムはどのように変わるのか」が想起される。本課題研究では、まずは後者に焦点を合わせ、人口減少社会はなぜ生じるのか、それによってどのような影響がありうるのか、どのような対策が行われているのかを探りたい。

そこで本課題研究では、人口減少社会の背景や影響（課題）、論点について、樋田大二郎氏からご紹介いただく。続いて、高橋亜希子会員から、地域の人口減少による高校のカリキュラムへの影響と取り組みについて、統廃合前・後、市町村校化後などの段階に分けてご報告いただく。最後に、大貫守会員から主に島嶼部・中山間地域などの小規模校における小学校・中学校のカリキュラム及びそこでの取り組みについて報告していただく。

<発表者>

- ・人口減少社会の高校が取り戻す未来とつくる未来

—人口減少の社会変動と地域の高校の変容—

樋田 大二郎（関西国際大学、非会員）

- ・地域の人口減少による高校のカリキュラムへの影響

—統廃合前・後、市町村校化：高校教育をいかに維持できるか—

高橋 亜希子（南山大学）

- ・人口減少社会における学校教育の様相

—島嶼部・中山間地域の小規模校のカリキュラムに着目して—

大貫 守（愛知県立大学）

<司会>

- ・奥村 好美（京都大学）
- ・田村 知子（大阪教育大学）

<コーディネーター>

- ・奥村 好美（京都大学）
- ・田村 知子（大阪教育大学）
- ・中野 和光（美作大学）

課題研究Ⅳ

教育の思想と実践をつなぐカリキュラム研究の国際的展開

返照館200

カリキュラム研究とは、そもそも何を意味するのだろうか。

本課題研究では、カリキュラム研究を単なる授業研究にとどめるのではなく、「授業・学校改革」「教師教育」「教育思想」「社会改革／市民論」などを含む、より広義の概念として再解釈することを試みる。今年度においても、このような広がりを持つカリキュラム研究の枠組みを踏まえ、2024年度から継続してきた議論をさらに発展させていく。

そこで、今年度のテーマを「教育の思想と実践をつなぐカリキュラム研究の国際的展開」と設定した。本課題研究では、教育思想と教育実践との接点を問い直しながら、理論と実践が往還するフレームワークの構築をめざす。その過程において、カリキュラム研究がいかんして教育改革や教師の専門性形成、さらには社会的課題への応答性を担うのかについて、多角的に検討する。

すなわち、教育思想と教育実践の接点に着目しながら、カリキュラム研究の新たな地平を探究する試みであり、具体的には、プラグマティズム、デューイ、クラフキといった国際的な思想家の教育理論を手がかりに、各国の教育実践において、それらの理論がどのように展開・応用されてきたのかを考察する。今年度の発表者には、上智大学の上野正道氏、愛知教育大学の中野真志氏、筑波大学の田中怜氏を迎え、それぞれの視点から、教育思想とカリキュラム実践の往還可能性について議論を深める。

これらの報告を通して、教育思想と教育実践の往還的關係を理論的かつ実践的に照射し、2026年度に向けた本課題研究の集約と展開への基盤を形成することを意図している。

<発表者>

- ・「プラグマティズムの教育思想とカリキュラム研究・実践」

上野 正道（上智大学）

- ・「シカゴ大学時代のデューイのカリキュラム理論とデューイ実験学校のカリキュラム実践」

中野 真志（愛知教育大学）

- ・「ヴォルフガング・クラフキのカリキュラム構想と教育実践」

・「ドイツ教授学」は教育実践をどう牽引してきたのか

田中 怜（筑波大学）

<指定討論者>

- ・藤本 和久（慶応義塾大学）

<司会・コーディネーター>

- ・倉本 哲男（静岡文化芸術大学）
- ・的場 正美（愛知文教大学）

本企画（ミニシンポ）は、『ライティング教育の可能性：アカデミックとパーソナルを架橋する』（勁草書房、2025年）のうち教師教育にフォーカスし、教師教育の文脈におけるライティング（書くこと）の意味と可能性について探究していく。従来、教師教育とライティング教育の議論が交わることはなかった。そのため、教師教育で書くことが論じられる際に、アカデミック・ライティングとパーソナル・ライティングという術語や構図が意識的に用いられてきたわけではない。

とはいえ、教師や教師志望の学生が自身の実践経験について書くときには、「私」を主語として綴り、時に感情などの内面を吐露することが一定肯定される。この意味で、パーソナル・ライティングとしての私的な側面を多分に有している。他方で、アカデミック・ライティングのように公共的言説に加えていくというパブリックな志向性も強い。これは、教師によって綴られた実践記録や事例を公刊することで実践の知を共有財産化することを目指すからである。したがって、教師教育という分野は、パーソナル・ライティングとアカデミック・ライティングの構図からはみ出し、再考を迫るものである。

ライティングを通して教師を育てるとはどういうことか。教師教育におけるライティングの意味と可能性を一考する。

#### <企画者>

- ・松下 佳代（京都大学）
- ・川地 亜弥子（神戸大学）
- ・石田 智敬（愛知県立芸術大学）

#### <発表者>

- ・ライティングによる公共性の再構築：福井大学の教師教育カリキュラムを事例に  
遠藤 貴広（福井大学）
- ・教師教育におけるケース・ライティング：教師が書くことの意味と教師教育者の役割  
若松 大輔（弘前大学）

#### <指定討論>

- ・松下 佳代（京都大学）

#### <司会>

- ・川地 亜弥子（神戸大学）
- ・石田 智敬（愛知県立芸術大学）

自主企画セッションⅡ（ラウンドテーブル）

大阪教育大学附属平野小学校における「概念ベースの探究カリキュラム」の開発  
ー学習内容の精選によるカリキュラム・オーバーロード問題への応答ー

返照館 304

平和で公正で持続可能な社会の構築のためには、VUCA(予測困難で不確実、複雑で曖昧)社会への対応ができるとともに、自身も社会の一員としての自覚をもってより良い未来を描き、その実現に向けて能動的にアプローチし続けることができる資質・能力が必要である。一方で、学校教育では、社会的な要請から数え切れないほどの新しい学習内容が登場し、既存の学習内容に追加される傾向がある。そのため、学習内容が溢れている状態（カリキュラムオーバーロード）であり、その解消が学校教育においては喫緊の課題となっている。

そこで大阪教育大学附属平野小学校では、新教科「未来探究科」を創設し、一人一人が社会の一員としての自覚をもって実現したい未来を描き、その未来の実現に向けて能動的にアプローチをし続けることができる資質・能力を備えた子どもたちを育てるとともに、資質・能力を基盤とした各教科と横断・統合したカリキュラム開発を実施することで、カリキュラム・オーバーロードを解消することを目的とし、その教育課程に関する研究開発を行ってきた。

本ラウンドテーブルでは、大阪教育大学附属平野小学校の研究主任として「概念ベースの探究カリキュラム」の開発を進めてこられた渡邊和也会員、および山崎善和会員にこれまでの取り組みと成果をご報告いただく。これらの発表に対して指定討論者の大貫守会員には、科学的な探究学習とその評価という視点から建設的批判を加えていただく予定である。

<企画者>

- ・八田 幸恵（大阪教育大学）

<発表者>

- ・未来探究科におけるカリキュラム編成の手続きと実践事例  
渡邊 和也（大阪教育大学附属平野小学校）
- ・未来探究科の評価と各教科との関連  
山崎 善和（大阪教育大学附属平野小学校）

<指定討論者>

- ・大貫 守（愛知県立大学）

<司会>

- ・森本 和寿（大阪教育大学）

自主企画セッションⅢ（ラウンドテーブル）

ヨーロッパのエリート教育・才能教育  
—イギリスの歴史・フィンランドの現在—

返照館401

近年、才能教育・エリート教育に対する社会的な関心が高まっている。政府や文科省レベルでは、2006年の「才能ある子どもの個性・能力の伸長」が発表され、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業は一定の広がり、定着を見せている。2021年には「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議」が「論点整理」を提出した。

一方で、日本の教育学においてこの分野の研究は、非民主的教育のイメージから長らくタブーとされてきた。文科省が、才能教育やエリート教育という名称を使用せず、「特異な才能」「個性・能力の伸長」といった用語を採用していることはこのことの裏付けである。

本研究には、このテーマの現状を肯定あるいは推進する目的はない。また、これまでのこの領域にあった「平等か、卓越か」といった不毛な二分論にもくみしない。

なお、エリート教育と才能教育をひとまとまりとして使っているのかという批判があるかもしれない。およそどの国でも、エリート教育に注力していると大々的に言うことはない。しかし、「戦後長らく、才能教育、英才教育は、概念としてエリート教育と未分化な状況にあ」り、また事実、近年のSSHの登場は、理数系など、「個々の子どもの才能を育成しつつ、同時に国家戦略に沿った特定分野の人材育成」というエリート養成的な側面も強く持っていることは否定できない（麻生誠、1967）。

そこで、本ラウンドテーブルでは、まず、イギリスの自由教育論争を取り上げ、歴史的な視点からエリート教育に関わる論点を浮かび上がらせたい。次に、比較研究的な視点から、フィンランドの才能教育・エリート教育の現状を紹介する。フィンランドを含む北欧は基礎教育（一般教育）が充実しており、才能教育のイメージはあまりないが実態はどうなっているのだろうか。

なお、本研究は、これまで上梓した『変動する大学入試』（2020年）『変動する総合・探究学習』（2023年、いずれも大修館書店）の研究過程で浮上してきた継続的テーマとしても位置づけている。この点については、当日の趣旨説明にて明らかにしたい。

<企画者>

- ・伊藤 実歩子（立教大学）

<発表者>

- ・イギリスの場合

本宮 裕示郎（滋賀県立大学）

- ・フィンランドの場合

Erkki Tapio Lassila（神戸大学・非会員）

<司会>

- ・奥村 好美（京都大学）
- ・二宮 衆一（和歌山大学）

自主企画セッションⅣ（ラウンドテーブル）

普通科高校への教科横断型・探究学習の導入  
—日・仏・フィンランドで何が生じたか—

返照館 402

普通科高校は中学と大学の間に位置し、上級学校進学を前提とする課程である。大学の進学試験は教科の区分で行われることから、普通科高校のカリキュラムは基本的に教科学習が中心となってきた。そのため、2004年に日本の高校で導入された「総合的な学習の時間」も、実施は低調であった。

しかし、現代的な課題の学習の必要性、資質・能力型の学習の導入等への対応により、探究学習や教科横断型学習が普通科高校のカリキュラムに世界の国においても導入されつつある。日本の高校学習指導要領における探究と名の付く複数の科目の導入もそれにあたる。

しかしながら、日本では、教科学習の内容・事項の量はそのまま、探究学習や教科横断型学習が導入されたため、カリキュラム・オーバーロードは不可避ともいえる。異なる教科間での教師の協働、大学入試への接続、も課題である。各国の普通科高校のカリキュラムは探究学習や教科横断型学習の導入にいかに対応し、それによりどのような影響が生じているのだろうか。

本セッションでは、上記について、日本・フランス・フィンランドの普通科高校の事例を通して考察する。両国の事例を参照軸として紹介するのは、両国とも思考力・表現力を問う形式の大学入学資格試験を実施しつつも、フランスは教科学習中心である一方、フィンランドは教科横断型学習に積極的と捉えられてきたからである。

探究学習や教科横断型学習の導入状況や課題は、それぞれの国の文化、教育制度、カリキュラムによって異なる。3か国の事例を通して、普通科高校における教科と探究学習や教科横断型学習の関係性、普通科高校の位置づけやそこでの学習の意義について考えたい。

<企画者>

- ・高橋 亜希子（南山大学）

<発表者>

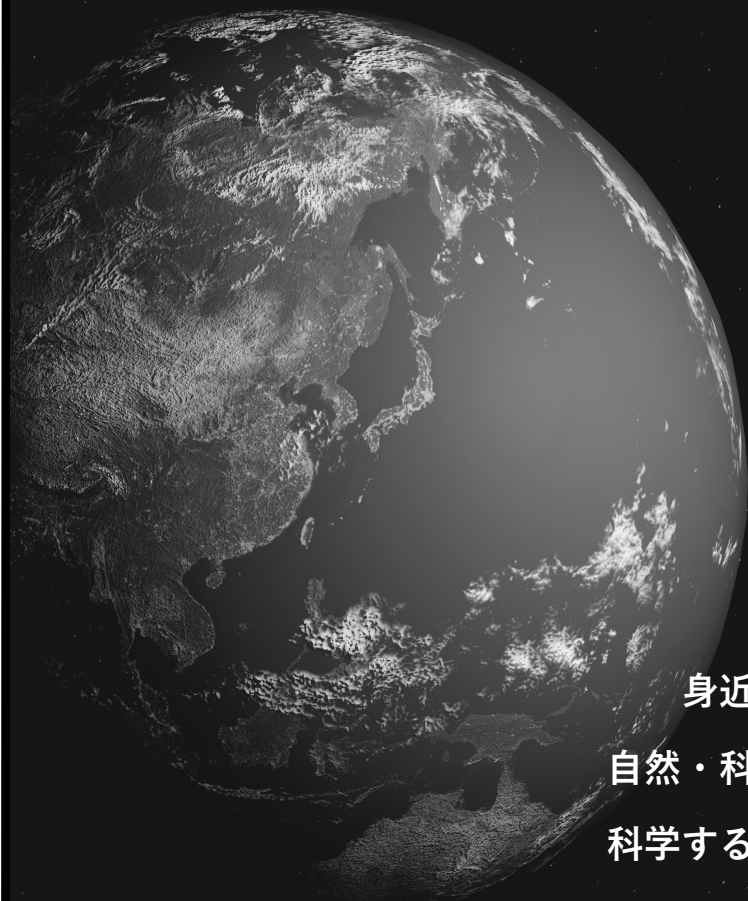
- ・日本：探究学習の大幅な導入と多様なカリキュラム  
—大学進学の“別ルート”化と枠づけ（共通性）の喪失—  
高橋 亜希子（南山大学）
- ・フランス：高校で教科横断的な学びは可能なのか  
—新教科「人文学・文学・哲学」の受け止め方を通して—  
細尾 萌子（立命館大学）
- ・フィンランド：教科横断的な学びの過渡期としての現在を読み解く  
—地方・学校独自の取組の可能性を拓くしくみの構築—  
渡邊 あや（津田塾大学、非会員）

<司会>

- ・渡邊 あや（津田塾大学、非会員）
- ・細尾 萌子（立命館大学）

祝 日本カリキュラム学会 第36回大会

# こどもたちの未来へ



身近にある不思議から  
自然・科学への関心を高め  
科学する心をはぐくみます



21世紀の社会を築くこどもたちに  
「豊かな感性」と「確かな学力」を

— 知が啓く。 —  
**啓林館**

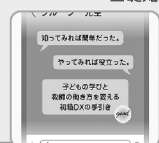
|       |                                            |                  |
|-------|--------------------------------------------|------------------|
| 本社    | 〒543-0052 大阪市天王寺区大道4丁目3番25号                | 電話(06) 6779-1531 |
| 東京支社  | 〒113-0023 東京都文京区向丘2丁目3番10号                 | 電話(03) 3814-2151 |
| 北海道支社 | 〒060-0062 札幌市中央区南二条西9丁目1番2号サンケン札幌ビル1階      | 電話(011) 271-2022 |
| 東海支社  | 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1丁目15番20号 ie丸の内ビルディング1階 | 電話(052) 231-0125 |
| 広島支社  | 〒732-0052 広島市東区光町1丁目10番19号 日本生命広島光町ビル6階    | 電話(082) 261-7246 |
| 九州支社  | 〒810-0022 福岡市中央区薬院1丁目5番6号 ハイヒルズビル5階        | 電話(092) 725-6677 |

<https://www.shinko-keirin.co.jp/>

# カリキュラムの研究と実践に役立つ好評3選

## いちばんわかる！ 学校DX事始め

“NEXT GIGA”に備える  
基礎知識&実践ガイド



玉置 崇著

### ここから始める学校DX

そもそも学校DXとは？  
授業と学びを改革するとはどういうことか  
授業と学校経営そしてITに精通する者が  
“いちばん”わかりやすく解説します！  
巻こうばい



## いちばんわかる！ 学校DX事始め

—“NEXT GIGA”に備える基礎知識&実践ガイド

玉置 崇／著

●A5・定価2,640円(10%税込) ※電子版あり

- GIGAスクール第2期がよいよスタート！標準仕様となる学校DXで、授業は、働き方はどう変わるのか。
- 事例をもとにその実際を提示。
- そもそも学校DXとは、クラウドとは、ダッシュボードとは。NEXT GIGAのキーワードを易しく解説。
- 学校を支援する教育委員会指導主事や学校管理職、主任層などのスクールリーダーをはじめ、すべての関係者に向けた、学校DXの初級ガイド。

2025年  
5月刊

詳しくは  
コチラから！



## 子どもと教師の ウェルビーイングを実現する カリキュラム・マネジメント

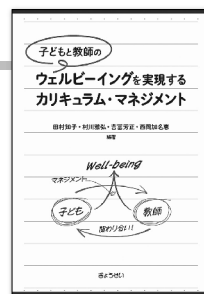
田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵／編著

●A5判・定価3,080円(10%税込) ※電子版あり

- 文部科学省の「第4期教育振興基本計画」にうたわれた「ウェルビーイング」。
- すべての人が健康・学び・仕事に充足されることを目指したウェルビーイングの実現に向けて、カリキュラム・マネジメントの視点から「学校づくり」「授業づくり」のアイデアを紹介。
- 校長の学校経営に、教頭・主任層の管理職試験に、日々の授業づくりや働き方改革にぜひ！

2024年  
4月刊

詳しくは  
コチラから！



## 「学び合う学び」を生きる

—“まなざし”と“内省的実践”がつくる授業—

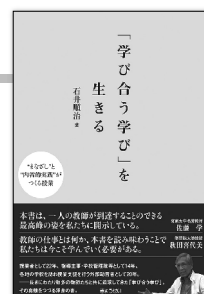
石井順治／著

●A5・定価2,640円(10%税込) ※電子版あり

- 深い学びが生まれる授業づくりの3つの軸とは、教育の質を決める5つの“まなざし”とは、子どもの事実が“みえる”とは。
  - 教育実践者としての約60年にわたる歩みの中で出会った優れた授業、教師・子どもたちの学びの姿から編み出された、具体的授業論。
  - 聴き合い、つながり合って深まる「学び合う学び」。
- その実現のため教師は何をすべきか？授業という営みの難しさに寄り添い、温かな視線と助言で教師の実践を支える一冊。

2023年  
7月刊

詳しくは  
コチラから！



株式会社 ぎょうせい

〒136-8575 東京都江東区新木場1-18-11

※電子版は「ぎょうせいオンラインショップ」(<https://shop.gyosei.jp/>)からご注文ください。

TEL: 0120-953-431 [平日9~17時] FAX: 0120-953-495

<https://shop.gyosei.jp> ぎょうせいオンラインショップ 検索



# 教育「変革」の 時代の 羅針盤

「教育DX×個別最適な学び」の  
光と影

石井英真 著

A5判 240ページ 定価:2,860円(税込)

# 教育「変革」の 時代の 羅針盤

「教育DX×個別最適な学び」の光と影  
石井英真 著



(「はしがき—教育「改革」の時代から  
教育「変革」の時代へ」より)  
教育「変革」政策が、タテ社会日本の、世間  
に準拠した行動に流れがちな同調主義、そし  
て、めいめいの努力に依存する精神論に傾斜  
しがちな自力主義を少しなりとも問い直すも  
のになりうるのか。そして、より多くの子ども  
たちのウェルビーイングを保障する、より共  
生的で機動性のある公教育システムの構築に  
つながりうるのか。あるいは逆に、情報技術  
革新のインパクトも技術的に消費して、自由  
と多様性の名の下に社会の分極化と不安定  
化を強め、主体性尊重の名の下に、心理主義  
と社会問題の個人化の傾向を強め、結果とし  
て生きづらさの拡大につながるおそれはない  
のか。本書では、教育「変革」政策の光と影  
を見極めて、「日本型学校教育」の再構築に  
つなげる道筋について論じたいと思います。

## 現代カリキュラム研究の動向と展望

日本カリキュラム学会 編 A5判 420ページ 定価:5,060円(税込)

カリキュラム理論の展望、カリキュラム実践の課題、カリキュラム研究の方法について幅広く取り上げて論究。  
日本カリキュラム学会の30周年記念出版。



教育出版

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館  
<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>

TEL: 03-5579-6725  
FAX: 03-5579-6693



「正答」を  
押しつけるだけ、  
一問一答の発問に  
陥らないための  
全教師必読の書!!

子どもたちをゆさぶり、応答関係を創り出す  
**発問を再考する!**

子どもがつながる、  
学びが深まる  
**「発問」**

「個別最適化時代」の教師の問い

竹川慎哉 + 豊田ひさき 編著

- A5判・168ページ
- 定価2,310円(本体2,100円+税)
- ISBN: 978-4-7619-3037-0

詳しい  
内容は  
学事出版  
HPで



- Ⅰ 発問の考え方
- Ⅱ 個別の学び、  
協働の学びと  
教師の問いかけ
- Ⅲ 探究学習と  
教師の問い
- Ⅳ 争点のある学びと  
教師の問い
- Ⅴ 子どもの  
多様性と学び

詳しくは、「学事出版」ホームページをご覧ください。ご注文もできます。 <https://www.gakuji.co.jp>



学事出版

千代田区神田神保町1-2-5 和栗ハトヤビル3F

TEL 03-3518-9016

FAX 0120-655-514

# 月刊「教育展望」

毎月1日発行、A5判、64頁、定価493円（448円＋税）

## 2025年 特集

- 6月号 教育格差への対応
- 5月号 学校における防災・防災教育の現在とこれから
- 4月号 学習指導要領の改訂に向けた文科大臣「諮問」をどう見るか―第1回
- 3月号 問題を発見し解決していく力の育成
- 1・2月合併号 学校における働き方改革の現在
- 2024年 特集
  - 12月号 第53回教育展望セミナー テーマ別報告
  - 11月号 第53回教育展望セミナー 全体会報告
  - 10月号 幼児教育と小学校教育の接続・連携を考える
  - 9月号 子どもの抱える困難と生徒指導
  - 7・8月合併号 GIGAスクール構想と学びの姿
  - 6月号 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の現在
  - 5月号 地域とともにある学校づくり
  - 4月号 社会の多様性と学校教育
  - 3月号 学び合いのある豊かな授業づくり

## 「教育展望」臨時増刊

セミナー研究討議資料

A5判、定価2619円（2381円＋税）

- No.56（第53回教育展望セミナー）  
変革の時代の学校教育を展望するⅣ  
―学習指導要領に基づく教育課程の実施状況と次期改訂に向けての提言―  
2024年7月発行、104頁
- No.55（第52回教育展望セミナー）  
変革の時代の学校教育を展望するⅢ  
―子どもが主体的に学びを深めるための学習指導の在り方―  
2023年7月発行、104頁

## 一般財団法人 教育調査研究所

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館  
TEL：03-3520-2970 FAX：03-5579-6574  
E-Mail：chouken@estate.ocn.ne.jp

### 教育学関係学術図書のご案内

価格は税込。

#### 続 奇跡の学校―不可能を可能にしたコミュニティ・スクール―

小西哲也・中村正則編著 1980円

#### A Plurilingual Approach for Foreign Language Education in Japan

王 林鋒著 8800円

#### 日本キャリア教育事始め

『日本キャリア教育事始め』編集委員会編 3300円

#### 子どもの心理と教育内容の論理を結びつけた社会科授業

社会科の理念と授業を考える会編 3300円

#### レリバンスの構築を目指す令和型学校教育

關浩和・吉川芳則・河邊昭子編著 4180円

#### 犯罪からの子どもの安全教育プログラムに関する基礎的研究

清永奈穂著 7700円

#### 現代韓国における歴史教育の立論と構想

梁豪煥著／福田喜彦・井上奈穂・金聖玟訳 4950円

#### 大正新教育の実際家

橋本美保編著 4070円

#### 社会科教育からのケイパビリティ・アプローチ

志村 喬編著 3300円

#### 教員養成学を考える

上越教育大学「教員養成学」書籍編集委員会編 4180円

#### 社会科・地理教育実践学の探求

志村 喬編著 3300円

#### レリバンスを構築する歴史授業の論理と実践

二井正浩編著 2750円

#### 子どもの社会的思考力・判断力の発達と授業開発

加藤寿朗・梅津正美・前田健一・新見直子著 3300円

#### ドイツの学力調査と授業のクオリティマネジメント

原田信之著 2750円

#### 歴史教師のビリーフに関する国際比較研究

宇都宮明子・原田信之編著 2750円

#### 質の認識としての音楽科カリキュラム

西園芳信著 5500円

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34  
TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

風 間 書 房

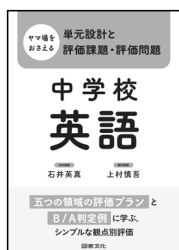
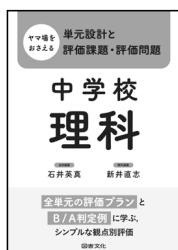
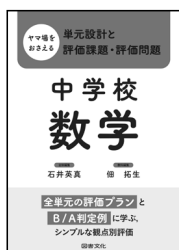
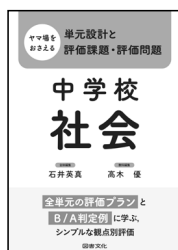
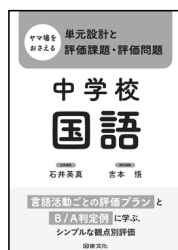
(URL) <https://www.kazamashobo.co.jp>  
メールアドレス [pub@kazamashobo.co.jp](mailto:pub@kazamashobo.co.jp)

ヤマ場をおさえる

中学校5教科

# 単元設計と評価課題・評価問題

【全体編集】石井英真（京都大学大学院教育学研究科准教授、児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ委員） B5判184～216頁 定価各2,860円（税10%込）



## 全単元の評価プランと B/A判定例 に学ぶ、シンプルな観点別評価

- 国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』に基づき「内容のまとまり」ごとの評価プランを掲載。
- 単元ごとに、重要な2つの評価場面を例示。  
評価の難しい「思考・判断・表現」を中心に、評価規準に対応する生徒の学習状況や作品例（B・A）を評価事例として掲載。

「ヤマ場」とは、授業や単元の中で学習を深めたいと教師や子ども自身が考える、「ここぞ」の場面を表しています。重点化・焦点化により、教育の「レス・イズ・モア」（多すぎない内容を豊かに学ぶ）をめざすシリーズです。

〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-15  
<http://www.toshobunka.co.jp/>

図書文化

TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519

教育による包摂／排除に抗する児童福祉の理念  
児童自立支援施設の就学義務化から  
高田俊輔 著

非行少年を対象とする入所型の児童福祉施設であり、少年院と児童養護施設の折衷を担ってきた、児童自立支援施設の実践と変遷を探る。▼四六判上製・三〇頁・四〇〇〇円

学校改革としてのイエナ・プラン  
ベーター・ベーターゼンの自律的教育科学の構想を訪ねて  
安藤和久 著

「自由で一般的な民衆学校」に向けた学校改革であるイエナ・プランと創始者ベーターゼンによる構想に立ち戻り、その理念と展開を追う。▼A5判上製・四二六頁・六三〇〇円

教授学への招待  
教えることと学ぶことの科学的探究  
エヴァルト・テアハルト 著／  
松田充 宮本勇一 熊井将太 訳

授業における教えると学びの関係をひもとく教授学理論は、学校や授業をどのように捉え、どのような教師を育てようとしてきたかを問う。▼A5判上製・二四四頁・三九〇〇円

批判的思考と教育  
還元主義学方論批判  
ジョン・E・マクベック 著／  
渡部竜也 訳

ある主題／教科を教えることに伴う批判的思考がもたらす多様性を、その意味、論理学的・認識論的な問題、論証や評価といった視点で解く。▼四六判上製・七〇頁・四〇〇〇円

師範学校と図画教育  
赤津隆助を事例として  
増田金吾 著

戦前期における図画教育指導法を確立した赤津の思想と実践についてその足跡をたどり、図画教育や教育のあるべき姿を追究する。▼A5判上製・四七四頁・八〇〇〇円

見ることを学ぶ  
ジル・ドゥルーズの〈紋切り型との闘い〉  
松枝拓生 著

見ることを学ぶという経験はなぜ重要か。多岐にわたるドゥルーズの思索から学習において振り返りや気づきを持つ意味を解き明かす。▼四六判上製・三八頁・四〇〇〇円

フンボルトの陶冶理論と教育改革  
学問中心カリキュラムの再考  
宮本勇一 著

W・V・フンボルトの思想と学校教授の原理を探究。自己と世界の方法的対峙としての陶冶と知の形態としての学問から教育を再考する。▼A5判上製・五五二頁・六〇〇〇円

学校と生活を接続する  
ドイツの改革教育的な授業の理論と実践  
田中 伶 著

70年代以降ドイツの学校教育改革を検証。教育という営みの両義的な発想を問い、多視点性を活かす差異に基づく授業構想を提言する。▼電子版配信予定三八〇〇円

春風社

〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘 53 横浜市教育会館 3 階  
電話：045-261-3168 / FAX：045-261-3169 info@shumpu.com

<http://www.shumpu.com/>  
\* 表示価格はすべて税別です

優秀な教師に必要なのは、才能ではない。効果的な「教え方」だ！

# 科学的エビデンスに基づく

HOW TO Teach Even Better: An Evidence-Based Approach

ジェフ・ペティ 著

京都大学教授  
緒方広明

日本語版監修

岡山大学准教授  
岡崎善弘 訳

定価：3300円(税込)  
978-4-487-81544-9

## 授業づくりに革命を！

学習成績を向上させるだけでなく、生徒たちを楽しませ、意欲を高め、自信を与える。それが効果的な「教え方」。学術研究と教師の経験の蓄積から導き出されたエビデンスをベースに、授業で実践する方法を視覚的に解説。



## 授業づくりに革命を！

学習成績を向上させるだけでなく、生徒たちを楽しませ、意欲を高め、自信を与える。それが、効果的な「教え方」。学術研究と教師の経験の蓄積から導き出されたエビデンスをベースに、授業で実践する方法を視覚的に解説。

実践ガイドブック

最適な教え方

東京書籍

出版事業部 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1

関西支社 〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-4-10 大阪東書ビル

ホームページ <https://www.tokyo-shoseki.co.jp>

Tel: 03-5390-7531 Fax: 03-5390-7538

Tel: 06-6397-1350 Fax: 06-6397-1358

東書Eネット <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

## 戦後日本教育方法論史(上・下) 田中耕治編著

「上巻」カリキュラムと授業をめぐる理論的系譜「在庫僅少」  
各3850円\*2刷

「下巻」各教科・領域等における理論と実践  
日本の教育の豊かな実践研究・理論研究の成果とこれからの課題について論争をよんできた主要な問題領域をとりあげて戦後初期から現在までの歴史をたどる。

## リテラシー教育はどうあるべきか

現代アメリカにおける概念の相克から読み解く  
樋口とみ子著 教育がもたらすのは既存社会への「適応」か、それとも「変革」か。論争を再審し、二項対立を超える道筋をさぐる。 6600円

## 授業づくりの深め方

「よい授業をデザインするための5つのツボ」  
石井英真著 指導技術等のマニュアルを示すのではなく、個々の教師が自分の手でよい授業をつくるための原則を示す。 3080円\*10刷

## カリキュラム研究事典

クレイク・クライデル編 西岡加名恵／藤本和久／石井英真／田中耕治監訳  
基本的なキーワードから周辺研究の解説まで全505項目を収録した「読む事典」。今後の日本の教育課程を考える上で示唆に富んだ一冊。 22000円「在庫僅少」

田中耕治監修  
シリーズ学級経営

## ①学級経営の理論と方法

学級と子どもたちに向き合う理論と実践知とは。

田中耕治編著 2860円

## ②事例で読む学級経営

九人の教師が語る二つとない学級のドラマ。

岸田蘭子／盛永俊弘編著 2750円

## よくわかる授業論

基礎的・基本的な知見を、幅広いトピックスをとりあげ解説。 2860円\*13刷 田中耕治編

## よくわかる教育課程

主体的にカリキュラムを組み立てていくための知識や考え方。 2860円\*9刷 田中耕治編

## よくわかる教育評価

幅広いトピックスをとりあげて解説する入門書。 3080円\*2刷 田中耕治編

ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1 \*表示価格税込 目録呈  
TEL 075-581-0296 FAX 075-581-0589 [www.minervashobo.co.jp/](http://www.minervashobo.co.jp/)

日本カリキュラム学会第36回（花園大学）大会プログラム

2025年6月21日（土）・22日（日）

大会実行委員会

花園大学

京都府京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1

委員長：磯田文雄

副委員長：松下晴彦

事務局長：藤井浩史

副事務局長：炭谷将史 木村 裕

実行委員：芦田風馬 北林雅洋 久富 望 諏澤宏恵

等々力花歩 中 善則 三好真史 山口真希

